



半世紀近いファミリーキャンプで 多くの人との絆を育む



(一社) 愛知県産業資源循環協会
事務局長

小坂 元信さん



キャンプの楽しさを語られる小坂事務局長

平成23年より事務局に名古屋市より赴任。平成26年に事務局長として事務局全般の業務を統括し、ホームページのリニューアル及び最新情報の更新作業、委員会のオンライン会議、開催事業のオンライン配信等を手がけ、事務局内のIT化を推進。会員さんからの依頼事項を親身に対応されるクールな縁の下の力持ち、事務局長小坂元信さんにお話を伺いました。



日々の業務のお務め、ありがとうございます。

今回は趣味がアウトドアでの活動とお聞きしましたが？

小坂：そうですね。キャンプが好きです。始まりは子ども達が小学校に上がった時ぐらいかな。子ども達に自然の中で楽しく遊んで欲しい、バーベキューでわいわいと賑やかに美味しく食べて欲しい、みんなと一緒に楽しみたいという想いから家族を連れてキャンプに行きました。

当時はオートキャンプブームの

走り、大きなテントや人数分の寝袋、キャンプ道具一式を車に載せて、休みとなるとあちらこちらに行きました。

そのせいなのか、うちの子ども達は虫や森にとっても興味を持ち、自然への敬意、環境保護への関心が高くなったような気がします。

ただ、子ども達が高校生になりいろいろと学生生活が忙しくなった頃から、キャンプへは行かなくなりました。以降、お休みの日は妻と車でドライブを楽しむようになりました。



あら、まあ～ そちらも楽しそうですね！

妻は家でじっとしているのが苦手なタイプで、休みとなると道の駅めぐりや美味しいパンを買いに行ったり、珍しいスイーツを食べに行ったりで、毎週休みは出かけていました。

そもそも私がアウトドアが好きになったのも・・・

昔の話になりますが・・・

妻と知り合ったのは私が学生の頃で、私の大学の学園祭で知り合い(笑)、その妻がワンダーホーゲル部に所属していて、その影響で私も一緒に山に登ったり野外活動をするようになりました。妻と同じような価値観を持つライフスタイルであったことから、伴侶であり盟友のような深い絆で結ばれていました。



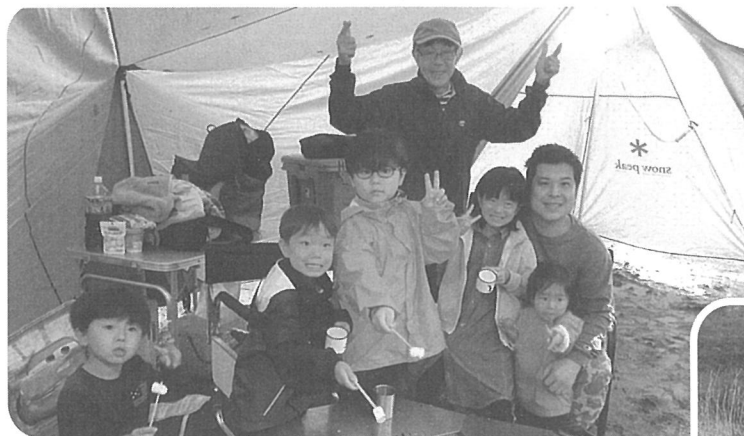
アウトドア歴、長いんですね！

そうそう、中断していたファミリーキャンプですが、12年前くらいから始めたんです。

再開初回は妻とデーキャンプからやってみようかと、河口湖で一泊二日を過ごし、その帰りに精進湖へ寄りました。

そこから眺めた富士山がとても綺麗で今でも目に焼き付いています。どうもその場所は、富士山のビューポイントの一つに挙げられるところのようでした。

また、当時その辺りのキャンプ場



精進湖畔にてお孫さんを交えてのファミリーキャンプ



精進湖畔に張った就寝用テント、会食用テントの二つの大きなテント



精進湖畔でキャンプをしていることを知ったキャンプ仲間が他県より大集合!



平湯にて雨の中でのキャンプでしたが、風雨に強いテントで楽しむ

はフリーでどこにでもテントが設営できました。しかし、なんとと言っても抜群の景観に感動した私と妻は、次の年も同じポイントでキャンプをし、そのうち成人した子どもも参加するようになり、子どもらにも家族ができ、段々今のような大所帯になってきました。

今ではその場所は人気となり、ゴールデンウィークは混み合うため私が前乗りしてテントを設営し、子ども達家族が来るのを待ち、最長は10日間ぐらいキャンプ生活をエンジョイします。

長く滞在できるときは、精進湖をベースにして清里や八ヶ岳方面まで足を伸ばしてドライブに出かけ、長野ならではの山々を堪能します。

毎日の食事は、バーベキュー料理がメインとなり食材は地元で調達しますが、地域ならではの食材

を使うとその土地の風土に触られます。こう見えて私の料理は美味しいんですよ!

夜はみんなで火を囲んで食事をしながらいろいろ話し、空を見上げれば満天の星空、キャンプに来て良かった!と思える幸せな瞬間です。就寝時は寝袋に入った途端、いつの間にか夢の中です。



最後に、キャンプならではの醍醐味はなんですか?

精進湖でキャンプをするようになって友人がたくさんできました。自然の中で素のままいる時に会える方々は、いろいろな立場を越えて本音で話せる友達になれるような気がします。さらにキャンプの場では、友達から友達の輪が広がる、という醍醐味があります。

今年もSNSで精進湖へ行く友人に送ったら、みんなが都合を付けて精進湖へ行くよ〜、と返信があり、今年も友人に再会できたんですよ。元々妻が、人と話すことが大好きで、妻がおしゃべりをして人の輪が広がったという経緯があり、そういうつながりを今も大事にしたいと思っています。キャンプは私にとって、ライフワークの一つと言っても過言ではありません。

小坂さん、お忙しい中取材にご協力いただきありがとうございました。

二年前にお亡くなりになられました奥様との貴重なお話を聞かせていただき、小坂さんへの影響力が大きかったことが僥ばれとても胸に響きました。

これからも産廃業界の発展を目指し、宜しく願い致します!